

三菱重工が20/3期決算と21/3期業績予想を発表—今後の業績・財務の動向を注視

以下は、三菱重工業株式会社（証券コード：7011）が発表した20/3期決算と21/3期業績予想についての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は11日、20/3期の事業利益が▲295億円、最終利益が871億円になったと発表した。事業損失の主要因は、開発中のジェット旅客機SpaceJetで過年度計上資産の減損を含め2,633億円の損失を計上したことである。21/3期事業利益、最終利益はそれぞれゼロの予想である。21/3期事業利益予想には、新型コロナウイルスの影響1,400億円とSpaceJetの事業損失1,200億円が下押し要因として織り込まれている。SpaceJetの事業損失にはボンバルディア社からのCRJ事業取得に際し、SpaceJet事業に配分するのれん等の減損500億円～700億円が含まれる。一方、20/3期末の有利子負債は過去最低水準の5,982億円となった。
- (2) 21/3期も業績低迷が続く見通しだが、事業利益の下押し要因として新型コロナウイルスの影響が1,400億円織り込まれているなど、不確定な要素が多い。こうした中、キャッシュフロー経営の浸透で健全な財務内容が維持されていることから、本件の発表をもって直ちに格付アクションが必要とは考えていない。
- (3) 新型コロナウイルスの影響度合いや収束までの道筋は、現時点では正確には見通せない。民間航空機（Tier1、エンジン）や中量製品の各事業への影響は大きく、生産計画の見直しや固定費削減等が喫緊の課題となっている。また、SpaceJetの納入スケジュールが遅れる中、SpaceJetを取り巻く事業環境も急速に悪化している。加えて、主力の火力発電関連事業は脱炭素化の潮流が逆風になっている。21/3期は前受金の減少や業績の低迷を主因にネガティブフリーキャッシュフローが予想されており、財務に対するストレスも強まる可能性が高い。急速に事業環境が変化する中で、財務基盤を損なうことなく、早期に業績の立て直しが進められるか注視していく。

（担当）関口 博昭・山口 孝彦

【参考】

発行体：三菱重工業株式会社

長期発行体格付：AA-

見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル